

## ～実践記録～

1. 学校名：文化学園長野中学校

2. 対象：中学1・2年、45名

3. 活動内容

(1) 活動名 English Camp「ブータンの学校と交流しようーブータンを学び、日本を知ろう」

(2) 活動の目標

例年、合宿形式で行われている English Camp およびカナダへの修学旅行が、本年度も開催不可能となった。その代替として、異文化理解学習を企画したものである。

ブータンの子ども達との文化交流を軸に、伝えようとする気持ちを持つ事によって言葉の力に気付き、英語学習への意欲を高め、主体的に学ぼうとする態度を育成する。また、同年代による異文化コミュニケーションから、文化の多様性と相互理解を経験するとともに、自文化への興味や誇り、アイデンティティを実感する。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に）    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている）        | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある）                      | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って）       |
| <input type="checkbox"/> その他（ ）                          |   |

②育成する資質・能力

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力        | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力    | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度   |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力   |   |

(4) 関連する SDG s

4. 質の高い教育をみんなに、10. 人や国の不平等をなくそう、16. 平和と公正を全ての人に、17. パートナリシップで目標を達成しよう



(5) 活動の内容

①ブータンを学び、ブータンを知る

青年海外協力隊としてブータンで活動した職員が、ブータンの概要について紹介。文化背景の違いを深く理解するため「日本と似ている、けれどちょっと違う」ものに着目し①衣装、②食、③民話にも触れた。

②ビデオレター交換

交流先が、首都ティンブーにあるロゼリン中等学校（Loselling Middle Secondary School）の6年生40名（日本の小6に相当）に決定。

お互いの文化を理解し、交流するためのビデオを作成。衣装、食、民話の3グループに分かれ、ブータンと異なる文化をどう伝えるか考えた。見る相手の視点に立つことで、日本らしさや他国から見た日本の素晴らしさについて再発見した。ビデオはグループごとの協働により全編英語で作成した。

ブータンからもビデオレターが届き、日常の学校の様子を見て、英語力の高さに驚いていた。

③オンラインで交流

自分たちとブータンの子ども達の英語力に差があることを実感し、リアルタイムの交流に向けて入念な準備を行う必要があることに気付いた生徒たち。事前に質問を交換してもらい、回答を作成した。

9月3日、現地とZoomでつないだオンライン交流を行った。質疑応答を中心に、お互いの文化などを紹介し合った。

#### ④手紙の作成

一人1通、英語で手紙を書き、ブータンへ送った。トウガラシをたくさん食べる文化のブータンの子ども達に日本の唐辛子を味わってもらおうと、八幡屋礒五郎の七味唐辛子のオリジナルデザイン缶（交流記念デザイン）を同梱した。

#### ⑤七味唐辛子調合体験

日本文化を理解するために、八幡屋礒五郎のスタッフに、七味唐辛子調合の出前講座をしていただいた。なぜ長野で七味唐辛子なのか、ブータンとの共通点も理解した。教員も一緒に体験し、ブータンの唐辛子も混ぜ、世界でたった一つのオリジナル七味唐辛子を調合した。

### 4. 活動の成果



ブータンの地域や気候、宗教、国家体制などを理解し、相手の価値観を常に気にしながら活動する姿が多く見られた。

例えば、日本の果物が大変大きいことについて紹介しようとしたグループは、「ブータンの果物は小さく、日本の果物は大きい」という当初の相対的表現を批判的に吟味し、「私たちは日本の果物に誇りを持っている」という表現に変更した。実在する相手と交流しようとする意識が、自分たちの言動を注意深く振り返ることに繋がり、結果として他者の尊重をしながら言及するというスキルを育てたものと考えられる。

ブータンが唐辛子をたくさん食べる文化であることに興味を持ったことから、信州の七味唐辛子をブータンに紹介したグループもあった。唐辛子の使い方の違いを説明し、「頂きます、ご馳走様」といった日本独特の礼儀作法にも言及できていた。自文化を尊重する気持ちが芽生えたことで、他文化も同じように尊ぶことに気付き、文化に優劣はないことを実感した様子であった。

オンライン交流では、練習したブータン国歌を披露した。すると、ブータンの子ども達はすぐにずっと立ち上がり、歌の終わりに深くお辞儀をした。これは、国歌に敬意を示すブータンの習慣である。ブータンからの質問も、「国」についてが多く、それに答えられない自分たちに気付くことができた。

外と内との往復視点で、映し鏡のように自分の国や地域、自分自身を見つめなおすきっかけとなった。また、他国の人を身近に感じ、「自分と同じように尊ぶ他者」としてとらえることもできるようになった。



### 5. 指導方法・体制の工夫

英語を公用語とし、日本との時差が小さな国であり、職員が青年海外協力隊として派遣されていたため、ブータンを相手国に決定。ブータンは約束事が必ず履行される土地柄ではないため、南アジアを得意とする旅行会社にご協力いただき、上田市に留学経験のある現地ガイドの伝手で交流校を探した。電気やネットワークが安定しているのは首都だけであり、対象に限られたことで、交流先決定までに3か月かかった。

オンライン交流当日も、時間通りに相手がZoomに入ることができず、10分以上遅れが生じたが、これも文化やインフラ事情の違いと説明することで、かえって異文化を実感する出来事となった。

教材：ブータンの民族衣装、生活用品、唐辛子など

協力者：(株)GNHトラベル&サービス 代表 山名訓様、シェラブ・ウオンディ様  
ロゼリン初中等学校 ソナム・ペマ教諭、6年生の皆さん  
(株)八幡屋礒五郎 金井様、北條様